

古く貴重な建物見学

上越市史
発刊記念

保存の必要も実感

2004.7.24

上越市がすすめる市史編さん事業の「通史編五近代」の発刊を記念した「近代の建築を訪ねるバス見学会」がこのほど、行われた。

マイクロバス二台に分乗した四十二人の参加者は上越市内の高田日活劇場や元高達回漕店事務所、師団長官舎、芳澤記念館など、明治から大正、昭和戦前までに建てられた貴重な建築物を訪ねた。同書の執筆者と編さん室職員が講師を務め、それぞれの見学場所



高達回漕店事務所を見学した

で歴史的な背景や建築史における意義などを説明した。

上越市中央三の、明治二十五年ごろに直江津銀行として建てられた高達回漕店事務所では、現在の所有者の中村和子高達倉庫社長と事務所として使用している斉藤政也高

茶道具・贈答品

遊心堂

ダイヤ4階 025) 五二六四八七

達回漕店社長が、見学会の参加者を出迎えた。

市史で明治以降の直江津の産業について執筆した直江津高校長の西山耕一さんが、直江津銀行の歴史や高達回漕店を創業した「石炭王」高橋達太について解説。参加者は貴重な建築物を実際に目で見て手で触れ、保存の必要性をあらためて感じていた。